

<b>1 学校教育目標</b> 本校の綱領「礼節」「勤労」「進取」の精神を念頭に、全職員一体となって愛情と信頼を基調とした教育を実践し、心豊かで調和のとれた社会に貢献できる人材の育成を図る。 教育スローガン「磨き 鍛えん 青春の志高く」
--

<b>2 本年度の重点目標</b> 熊本県教育委員会から示された「平成31年度(2019年度)県立中学校・高等学校における教育指導の重点」の趣旨に沿い、全職員が一丸となり、本校定時制に学ぶ生徒たちの現状を踏まえ、以下の項目の実現に努める。 ①出席率の向上 ②就労率の向上 ③授業改革・確かな学力の育成 ④生徒指導の徹底・基本的生活習慣の確立 ⑤キャリア教育の充実・進路保障 ⑥学校行事の活性化 ⑦校務改革・生徒と向き合う時間の確保・多忙化解消
---

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	学校経営方針	学校教育目標の達成	学校に対する高い信頼が寄せられている状態	①学校の教育活動を公開する機会を増やし、積極的に情報発信する。 ②学校の取組に対する意見や要望等を寄せやすい仕組みづくりを進める。	B	【成果】学校行事や公開授業の際に、学校関係者や地域住民の参加が増えた。 【課題】全日制とは異なる特長を、定時制の強みとしてさらにアピールしていく。
		魅力ある学校づくり	入学志願者が増え、転退学者が少ない状態	①在籍する生徒が誇りを抱く教育活動を全教科・全領域において展開する。 ②学校行事の際などに、活躍する生徒の姿を見てもらう機会を数多く設ける。	B	【成果】就業と学業を両立できる定時制教育の特徴や人吉准看との技能連携など関心を持つ中学生等からの問い合わせが増えた。 【課題】残念ながら、不登校や休学中の生徒が復学するには至らなかった。
	教職員の資質向上	教職員の指導力向上	職員が指導力向上のために自己研鑽に努めている状態(不祥事ゼロの状態)	①校内における会議等をOJTとして位置づけて実施する。 ②校外の研修等への参加などOff-JTにも積極的に取り組む。	B	【成果】単なる連絡や伝達の会議を大幅に削減することで職員研修の機会を増やすとともに、校外研修への職員派遣も積極的に行った。不祥事もゼロであった。 【課題】研修成果を全職員で共有化を図り、教育実践に生かす。
学力向上	授業改革	授業の改善	生徒が意欲を持って主体的に授業に参加している状態	①生徒が「学びのおもしろさ」や「学ぶ意義」を感じ、「達成感」を味わう魅力ある授業づくりに取り組む。 ②教材や教具の効果的な活用方法について研究し実践する。	B	【成果】生徒の授業評価には、全教科に対する肯定的な意見が示された。 【課題】一人一台ずつタブレットPCを貸与しているものの、ネットワーク環境が未整備のため、十分活用できていない状況にある。
		学習評価の改善	テスト問題の改善	テスト問題の質が向上し、客観性が高まった状態	①外部評価問題等との関連を図った作問に取り組む。 ②思考力や判断力を評価する作問を工夫する。	B
		指導と評価の一体化	学習評価の在り方について工夫・	①観点別評価やポートフォリオ評価について研究を進める。	B	【成果】義務教育における学習評価の在り方について学ぶ機会を設け

			改善がみられる状態	②単元や内容のまとまりごとの評価方法を研究する。 ③個に応じた適切な評価の在り方を研究し実践する。		ることができ、その方法等を積極的に取り入れようとする姿勢がみられるようになった。 【課題】評価の「規準」や「基準」の見える化がまだまだ進んでいない。
キャリア教育 (進路指導)	キャリア発達	基礎的・汎用的能力の育成	年次に応じた将来展望と実現に向けた努力がなされている状態	①社会的・経済的自立に向けた情報提供や体験の機会を数多く設ける。 ②ホームルーム等での講話や就労指導等を通して職業観・勤労観を育む。	A	【成果】定期的な進路面談等により、生徒のキャリア発達状態をきめ細かにつかむことができた。 【課題】生徒の状況に応じた対応の際の職員相互の役割遂行の在り方について工夫の余地がある。
	進路目標の達成	進路実現力の育成	進路実現に必要な力が向上している状態	①学校を中心とした生活習慣確立と、出席率を向上させる。 ②生徒の進路志望に応じた必要な手立てを検討し実践する。 ③外部テスト等の客観的指標を活用し、実力を評価する。	B	【成果】高校生のための学びの基礎診断を年間指導計画の中に位置付けた。 【課題】診断結果を効果的に活用しながら、指導の改善につなげていくサイクルを確立すること。
		進路保障	卒業予定者全員の進路が決定した状態	①定期的に生徒の進路状況について検討会を設け、必要な手立てを講じる。 ②生徒の適性等をふまえ、進路情報の提供や進路希望先訪問等を促す。	A	【成果】卒業予定者全員が目標とする進路を実現することができた。 【課題】さらに生徒が高い志や進路目標を抱くことができるよう、適切な進路情報の提供等を行っていく。
生徒指導	個性の伸長	生徒理解の深化	生徒の特性や能力(可能性)などが把握され、尊重された状態	①あらゆる機会を捉えて、生徒の特性や能力等を見い出すことに努める。 ②生徒情報の交換・共有の機会を数多く設け、生徒の可能性を伸ばす手立てを講じる。	B	【成果】毎週1回、生徒情報を共有する機会を設け、生徒理解を深めることができた。また、主任・主事による面談を実施し、全職員で共有化を図った。 【課題】生徒の可能性や適性等を把握し、伸ばす手立てをさらに工夫していく。
	自己指導能力の育成	自己肯定感の高揚	生徒の自己肯定感が高まった状態	①生徒のよさを見出し、認め、褒め、励ます教育実践に努める。 ②一人ひとりの生徒に応じた適切な課題を設定し、スモールステップで乗り越えさせ、数多くの成功体験を積ませる。	B	【成果】学校行事の場面を中心に、生徒が自らの役割を意欲的に果たすことにより、自信や活動的な側面がみられるようになった。 【課題】学校評価アンケート等の結果に、依然として自己肯定感の低さが表れている。
		自己決定力の育成	生徒が自己実現に向けて前進している状態	①様々な教育活動の場面で、生徒が選択する機会を設ける。 ②生徒が主体的に生徒会活動を行うことができるよう支援する。	B	【成果】スモールステップながらも、周囲の支援を受けながら着実に前進している様子が、生活体験作文等から読み取ることができる。 【課題】社会の変化に敏感である感性や、変化の姿を自分なりにイメージする力を養っていくこと。

人権教育の推進	人権尊重	人権を尊重する意識の高揚	互いに人権を尊重し合っている状態	①定期的に「人権便り」を発行する等、積極的に人権問題の啓発を行う。 ②日常の授業のなかに人権意識を高めるための計画を盛り込み、教育実践交流の機会を増やす。	B	【成果】生徒会の行動テーマに「人権尊重」を盛り込むなど、生徒の意識がより高まってきた。 【課題】職員研修の計画的実施や、人権教育推進月間の取組を、全職員一体となって実施することができなかった。
	生命尊重	生命を尊重する意識の高揚	生命を大切にしている態度や行動が見られる状態	①それぞれの授業のなかで、生命尊重に関する話題を適宜取り上げる。 ②健康教育や防災教育などの取組に併せて命を大切にしている意識付けを図る。	B	【成果】年間計画に沿った健康教育や防災教育に加え、命を大切にしている心を育む月間を設定して、全職員で取り組むなど新たな試みを行った。 【課題】自己肯定感が低い生徒が見受けられるため、生命軽視につながるよう注視する。
いじめの防止等	いじめの早期発見	いじめの認知と対処	いじめが適切に認知、対処された状態	①日常的な生徒観察と定期的な生徒情報の交換・共有とともに、アンケート等を活用していじめの早期発見につなげる。 ②万一、いじめ事案が発覚した場合は、基本方針に沿って迅速に対応する。	A	【成果】学校生活における生徒の様子を観察するとともに、定期的なアンケートなどから、いじめの認知ゼロを継続することができた。 【課題】保護者アンケートに「いじめの心配がある」との回答があったため、直後に生徒アンケート等を実施したが、該当する事態の特定ができなかったため、引き続き注意していく。
	いじめの未然防止	望ましい人間関係づくり	生徒同士が互いに思いやり、尊重し合っている状態	①生徒会による「いじめゼロ宣言」を行い、HRに掲示するとともに、毎学期の始業式時等に確認する。 ②HRを中心に、思いやりや互いを尊重する心を育む活動を工夫する。	B	【成果】毎週のはじめとおわりに全校一斉のホームルームを実施し、その際に「絆を深める」取組を継続的に行うことができた。 【課題】生徒同士が本音で交流し、真の仲間になれるよう、さらに場の設定等を工夫する余地がある。
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	社会に開かれた学校づくり	防災型CSの推進	防災型CSとして教育目標等が地域と共有された状態	①学校運営協議会を通じて、学校に対するニーズや課題等を把握する。 ②各種防災教育活動の実施について、「防災通信」の発行やHP等を活用して情報発信を行う。	B	【成果】防災通信の定期発行や、食料備蓄や防災関連備品の設置等を計画的に進めることができた。 【課題】災害発生に備えて、家庭や地域と連携した訓練が未実施の状態にある。
		保護者との連携	保護者が活発に学校行事等へ参加している状態	①年間スケジュールを見通して、保護者への行事参加の呼びかけをできるだけ早く行う。 ②学級通信等を活用し、保護者への情報提供を密に行う。	C	【成果】昨年度よりも早め早めに学校行事の実施と参加について呼びかけを行い、家庭と連絡を取り合う機会を増やすことができた。 【課題】行事に参加していただいた保護者数が少なかった。
校務改革	校務の効率化	業務改善	授業準備や生徒と向き合う時間が	①校務分掌組織を改編し、複数で業務を担当し、一人で業務	B	【成果】特に、担任が参加する会議時間が大幅に削減でき、授業準備や

			増加した状態	を抱え込まないようにする。 ②校務分掌事務の遂行に関するマニュアル整備やデータ共有を進める。		生徒に向き合う時間を創出することにつながった。 【課題】分掌事務のマニュアルを整備する段階に至らなかった。
	学校行事の精選	教育効果の高い学校行事に精選されている状態		①月間取組テーマを設定し、行事を体系的に実施する。 ②前例踏襲することなく、行事の目的・意義を明確化し、削減・精選を行う。 ③目標が重なる行事を検討し、整理・統合を進める。	A	【成果】月間取組テーマに沿って、それぞれの職員が教育活動を工夫・改善することができた。また、来年度から実施する「二学期制」に備えて、学校行事計画を抜本的に見直すことができた。 【課題】さらに教育効果が高まるよう、カリキュラムマネジメントを進める余地がある。

#### 4 学校関係者評価

##### (1) 学校経営について

- ・適切である。
- ・本年度の重点目標と併せて良好な成果をあげておられます。ただ、不登校や休学中の生徒が復学するに至らなかった件について、これからも指導よろしくお願いします。実社会に出て資格等を取得しようとする時、高卒と中卒では経験年数に大きな差異があります。生徒に説明してください。
- ・定時制に対する保護者、地域、生徒（中学生含む）の理解を深めるための取組がよくなされていると思います。中学校としても感謝しております。ぜひ今後も継続していただくよう望みます。
- ・魅力発信が、次年度の志願者数につながることを期待します。

##### (2) 学力向上について

- ・評価はいまいちだが、先生方の熱意や課題の認識は間違っていないので、今後期待できる。
- ・昨年の評価項目と本年度は違っていますが良好な成果です。ネットワーク環境を早く整備されて、十分な利活用をお願いします。
- ・先生方の努力が、生徒の授業評価の肯定的意見に結びついていることを評価します。
- ・せっかくのタブレットPCなので、ネットワーク環境の整備はぜひお願いします。
- ・ネットワーク環境の整備を望みます。
- ・夏トレ、楽しみながら学力UPになることを期待。

##### (3) キャリア教育（進路指導）について

- ・適切である。
- ・昨年度D評価だった進路指導がA評価に好転したことは、先生方の指導努力があったと推察されます。
- ・卒業予定者全員の目標実現は素晴らしいことと思います。先生方のお取組に感謝です。
- ・進路面談や学びの基礎診断等、個への対応の充実が功を奏しているのではと思います。引き続き宜しくお願いします。
- ・企業見学はよい取組です。普通科は進路を幅広い中から選択できることが強みです。先輩の話もいいです。少人数なので密なやりとりができます。

##### (4) 生徒指導について

- ・適切である。
- ・良い評価結果です。生徒一人一人家庭環境や性格・特徴も違う中、先生方も生徒に合った指導も大変だと思えます。これからも生徒たちが良い方向にいくようよろしくお願いします。
- ・学校行事で生き生きと頑張っている卒業生の姿を見て、大変嬉しく思っています。心から感謝しています。
- ・自己肯定感の高揚等、今後もしっかり取り組んでいただくようお願いします。
- ・自己肯定感、自己決定力、大切な力です。自己肯定感を向上していくのは、定時制の限られた時間ではなかなか時間が不足だろうと思います。子供たちの日中の居場所との連携が重要なと思います。
- ・人定祭、子供たちに任せて良かったです。

##### (5) 人権教育の推進について

- ・保護者アンケートの回答は気になるが、生徒の回答は問題ないのでいいと思う。
- ・「人権尊重」の意識の高まりは喜ばしいです。生徒たちが「思いやりの心」を持って活動した証と思われる。良い評価結果です。
- ・自己肯定感の高揚に向けても、人権教育、命を大切に教育は大切だと思えます。

- ・ SNS等の影響を考えると、B→Aになるよう、さらなる充実を期待します。
- (6) いじめの防止等について
  - ・ 保護者アンケートの回答は気になるが、生徒の回答は問題ないのでいいと思う。
  - ・ 案件に対し良好な対策・対応をされておられます。これからも指導をお願いします。
  - ・ 認知ゼロながら、保護者の回答の中に懸念もあったということをしっかり踏まえた取組をお願いします。
- (7) 地域連携（コミュニティースクールなど）について
  - ・ 保護者アンケートの回答は気になるが、生徒の回答は問題ないのでいいと思う。
  - ・ 災害発生時の連携の訓練が未実施となっていますが、大変でしょうが実施への努力をお願いします。保護者の学校行事への参加が少ないのは残念ですが、呼びかけを工夫してください。
  - ・ 保護者との連携にもしっかり取り組まれています。参加者数の増加等にはまだ成果は見られませんが、ぜひ、引き続き、取組の充実をお願いします。
  - ・ 時間に制約があるので、全員に関わるものと、個々に関わるものと組み合わせだと思えます。子供の日中の居場所との連携も地域連携です。
  - ・ 保護者が行事に参加しないのはなぜだったのでしょうか。
- (8) 校務改革について
  - ・ 適切である。
  - ・ 良い成果が出ております。先生方の努力の表れです。
  - ・ 来年から「二学期制」が実施されますが、在校生がこの移行で学業、生活面において動揺しないか心配です。良い方向へいくよう願っています。
  - ・ 校務の効率化にしっかり取り組まれている様子がうかがわれます。その分、生徒に向き合う時間がしっかり確保されるよう望みます。
- (9) その他
  - ・ 学校評価アンケートに回答していない人の回答が気になる。インターネットでの無記名回答のため、このような結果になったと思うが、試みはとても高く評価している。問題はこの結果を見てどう対応していくかだ。
  - ・ 二学期制になると「夏休み」が短くなり「秋休み」を設けるとなっておりますが、この地区の全日制3校に在籍する友人たちは夏休みを楽しんでいると思います。定時制の生徒は授業を受けることになりませんが、その友人たちから遊びなどに誘われたりして欠席が多くなるか心配します。
  - ・ 多様な生徒に対する手厚い教育活動を行っていただいていることに、中学校関係者として心から感謝しています。中学校でさらにしっかり育てて進学させられるよう、私たちももっと努力して参りますので、中高連携の充実をよろしくお願いします。

## 5 総合評価

- (1) 学校経営について
 

職員と保護者の意識の差が見られる面があるなど、保護者との連携面での課題が解決できなかった。また、教育活動の情報発信については、昨年度よりも学校通信の発行回数等は増やしたものの、内容等の充実をさらに図っていかなくてはならない。
- (2) 学力向上について
 

長期休業中の課外導入や外部試験導入など、学力向上への取組と評価の仕組みを大きく変えた。今後は、評価結果を踏まえて指導の在り方を改善していくPDCAサイクルを確実に回していくことで、確かな学力を育成していきたい。
- (3) キャリア教育（進路指導）について
 

進路講演会の実施や上級学校のオープンスクールへの参加を促し、低学年からの進路意識高揚を図り、進路意識調査にその成果が見られるようになった。その成果もあり、本年度の卒業予定者全員が第一志望の進路に進むことができた。
- (4) 生徒指導について
 

生徒に寄り添い、生徒の自信や自己肯定感を高めるための指導を全職員一丸となって実践することができた。第二回「人定祭」も生徒主体で企画実施し、さらに、全日制や五木分校との連携も実現することができたことは、生徒の自信につながったものと考えている。
- (5) 人権教育の推進について
 

人権教育指導力向上のために、今年度はO f f – J Tの機会を確保することに努め、毎学期1回の職員研修を実施するとともに、12月を「人権教育推進月間」に位置付けて人権意識の高揚に向けた取組を行った。
- (6) いじめの防止等について
 

生徒の些細な変化も見逃さない姿勢と、生徒が相談しやすい雰囲気づくりを心がけながら生徒に寄り添う教育活動を行うことができたため、いじめを未然に防止することができた。また、いじめの未然防止のため、生徒会活動においても「人定いじめゼロ宣言」を定期的に確認した。
- (7) 地域連携（コミュニティースクールなど）について
 

夜間の防災避難訓練など、定時制の状況に応じた取組を定期的にも実施した。しかし、保護者や地域と連携した訓練等の実施には至らなかった。
- (8) 校務改革について

校務分掌組織を大幅に改編し、担任を中心とする特定職員への過度な業務負担集中を解消することができた。また、職員からの提言をもとに学校行事の削減を進め、来年度からは「二学期制」に移行することで、より一層学校行事の削減を進めていく準備が整った。

## 6 次年度への課題・改善方策

### (1) 学校経営について

【課題】保護者との連携や広報活動の充実を図る。

【方策】保護者が参加しやすい学校行事等の機会を設ける工夫を行う。

また、教育活動の様子を積極的に発信し、学校に関心を寄せてもらえる工夫をする。

### (2) 学力向上について

【課題】生徒の成長を「見える化」する。

【方策】学習内容のまとめ（単元等）ごとに評価を行い、タイムリーに指導を改善していくことを全職員で共通実践する。

### (3) キャリア教育（進路指導）について

【課題】生徒の進路意識の高揚を図り、高い志を抱かせ、進路実現を支援する。

【方策】外部指導者を招聘するなどにより、生徒の進路意識に刺激を与える機会を今まで以上に増やす。

### (4) 生徒指導について

【課題】生徒に自信を持たせ、自己肯定感を一層高める。

【方策】生徒の頑張る姿の「見える化」に取り組み、できるだけ多くの人々から、生徒が褒められる機会を設定する。

### (5) 人権教育の推進について

【課題】教育実践の交流が進んでいない。

【方策】校外研修への参加機会を設け、研修成果の復講等を通じて実践交流を図る。

### (6) いじめの防止等について

【課題】「いじめ防止基本方針」をホームページで閲覧してもらえない。

【方策】「学校通信」等の媒体活用や、保護者会における説明等により、いじめの未然防止に向けた学校の取組等の周知・徹底を図る。

### (7) 地域連携（コミュニティースクールなど）について

【課題】地域住民等に来校してもらえるような教育活動を工夫・実践する。

【方策】「人定祭」などの学校行事開催を、「学校通信」等を通じて地域住民等に周知する。

### (8) 校務改革について

【課題】校務改革によって生み出された時間を、さらに生徒一人一人に寄り添い、生徒に親身になって向き合う時間として効果的に活用する。

【方策】校務分掌業務のマニュアルを整備するとともに、二学期制移行に伴いより精選された効果的な教育活動の在り方を模索、推進する。